守谷市教育委員会定例会 令和6年6月

1 日 時 令和6年6月25日(金) 午後1時30分～

2 場 所 守谷市役所 全員協議会室

3 出席者 教育長職務代理者 河原 健
 教育委員 萩谷 直美
 教育委員 椎名 和良

4 欠席者 教育長 町田 香
 教育委員 寺田 弘

5 説明のための出席者

教育部長	小林 伸稔
教育部参事	古橋 雅文
教育部次長兼生涯学習課長	福島 晶子
学校教育課長	前川 優子
教育指導課長	村松 静
給食センター長	鈴木 林
中央図書館長	平塚 恭子
事務局員(学校教育課長)	坂本 朋夫

6 傍聴人 なし

1	開会宣言 教育長職務代理者	午後1時30分 開会を宣言
2	会議録署名委員の指名 教育長職務代理者	会議録署名人に椎名委員を指名する。
3	議決事項 教育長職務代理者 学校教育課長	議案第27号「教育長職務代理者から教育部長への事務執行の委任について」説明を求める。 本案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項に基づき、教育長不在の間は、教育長職務代理者がその職務を行うこととな

	<p>っておりますが、委員会内各種事務等の日常的な業務を円滑に遂行させるため、守谷市教育委員会事務局組織規則第4条第3項の規定により、教育長職務代理者から教育部長が委任を受け職務を行うことについて同意を求めるものです。</p> <p style="text-align: center;">(質疑無し)</p>
<p>教育長職務代理者</p>	<p>議案第27号「教育長職務代理者から教育部長への事務執行の委任について」採決する。</p>
	<p style="text-align: center;">全員賛成（原案のとおり可決した。）</p>
<p>教育長職務代理者</p>	<p>報告第6号「令和6年守谷市議会6月定例議会月議会について、教育委員会所管分」について説明を求める。</p>
<p>教育部長</p>	<p>6月の定例月議会に上程しました教育委員会所管の議案等の結果について御報告をいたします。</p> <p>初めに、議案第47号 守谷市教育委員会委員の任命につきましては、常任委員会で委員から、私立の学校に勤務する職員を任命できるのかとの質疑があり、地方自治法上、経営に携わっていない方なので何ら問題はないことをお伝えし、本会議では、全議員から同意を頂くことができました。よって、10月1日から、寺田委員の後任として辺見芳宏氏に引き継いでいただくこととなりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>次に、議案第50号 令和6年度守谷市一般会計補正予算（第2号）につきましては、前回の定例教育委員会で承認をいただきました内容で、変更なく承認をいただくことができました。</p> <p>内容については、小中学校のPR動画制作に係る費用、教育指導課と生涯学習課職員数不足による会計年度職員補充のための費用、美術作家展40</p>

周年を記念した図録発行に係る費用、中央図書館大規模改修工事に伴う施設の拡張部分の地盤調査等の費用になります。

最終日の本会議上での討論、採決では、中央図書館大規模改修工事に伴う地盤調査の増額補正に対して、大規模改修工事自体は賛同するものの、増築するなら館自体を建て替え、また武雄市のように人を集客できるような施設となるよう、構想から練り直すべきと2名の議員から反対討論がございましたが、賛成多数で採択をいただくことができました。

続きまして、3番の報告第4号 令和5年度守谷市一般会計継続費の逡次繰越しについてと、4番、報告第5号 令和5年度守谷市一般会計繰越明許費につきましては、所管は財政課になりますが、当初から翌年まで繰り越すことを予定していた御所ヶ丘中学校校舎の改修工事や郷州公民館の改修事業、それから令和5年度内に支出を終わらせることが困難となった中央公民館のスライディングウォールの交換工事や、同じく中央公民館のホール扉工事等の翌年度への繰越額の報告となります。

最後に、5番の市政に対する一般質問への対応になります。今回の議会では、16名の議員から通告がございまして、そのうち、7名の議員から教育委員会に関する質問がございました。

初めに、1番の高梨恭子議員からは、来年夏に開催される大阪関西万博に関する質問で、万博の教育効果と小中学生に対する研修に対する考え方が問われ、効果としましては、子供たちが未来社会について主体的に考え、行動するきっかけとなることが期待できること。開催に向け、万博の意義やSDGsに関するプログラムがあること。さらには、修学旅行等で受入れに向けた環境整備も進められ、市内中学校においても、万博での研修を予定している学校があることをお伝えする

とともに、学校教育においても、万博を通じて未来社会について、主体的に考え行動できる人づくりを意識した指導をしていきたいとお答えをしております。

また、質問終了後なのですが、市長のほうから、希望者だけでも万博に連れていくよう調整してほしいというような指示を頂きましたので、今古橋参事が頭を悩まして、来年度どうするか、今検討しているところでございます。

また、高梨議員からは、二つ目の質問としまして、家庭教育講座に関する質問がございました。

まず、名称を守谷市学びのリレーションに変更した経緯や、周知方法、それから回数、内容など、年間のスケジュールや講師は誰が決めているかなど、事細かな質問がございまして、高梨議員からは、講座はとても良い内容でもあるにもかかわらず、参加人数が少ないことに対する指摘がございました。

今後は、休日開催の講座を増やしたり、夜間の開催についても検討していきたいと回答してございます。

さらに、高梨議員からは、茨城県が発行する家庭教育ブックの配布方法についても質問がありまして、子育てに役立つ情報が詳しく掲載された、すぐれたものであるということで、必要な家庭に現物を配布すべきであるとの御指摘をいただきまして、配布方法については、今後検討する旨を回答しております。

次に、3番の山田美枝子議員となります。山田議員からは、来年度から始まる黒内小学校の分散通学について質問がございまして、黒内小学校の来年度の入学者数や、バスを利用して他校へ行く児童の数や、スクールバスに係る費用はどれくらい見込んでいるのかなどの質問がございまして、スクールバス利用の申込みは7月末のため、来年度黒内小学校以外の学校を選択する児童が何人

になるかは、現時点では未確定であること。

また、バスの経費についても、人数確定後に台数や大きさが確定するため、現時点では具体的な数値を示すことが難しいことをお伝えしております。

次に、5番の堤茂信議員となります。堤議員からは、新守谷駅周辺土地区画整理事業に関する質問の中で、事業区域の通学区域はどの学校になるのか。また、児童生徒数は何人を見込んでいるのか。受入れ校の教室等に影響はないのかとの質問がございまして、児童生徒数は、計画人口100名に対し、5名から6名程度であること。通学区域は、黒内小学校区から御所ヶ丘小学校区に見直したこと。御所ヶ丘小学校及び御所ヶ丘中学校は余裕教室があり、今後も児童数が減少傾向にございますので、区画整理事業により教室数不足が生じるような影響は想像しにくいということをお答えしております。

次に、8番の梶岡香織議員となります。梶岡議員からは、小学校新設を含めた平等な教育環境を提供してほしいと、新設に関する庁内での協議の進捗状況の確認と、黒内小学校にプレハブ校舎を増設するに至った経緯、さらには他校への移動者が少なかった場合でも、黒内小の受入れは大丈夫なのか。それから、市長は教育現場の状況を把握しているのか。また、通学区域審議会において、今年度適正配置方針策定の審議が始まったことに対し、今後どのように進めていくのかとの質問がございました。

まず、新設の是非につきましては、庁内で他部署との協議を進め、年度内には市の方針を決定すること。プレハブの増設は、今後児童数の増加により特別教室の使用に支障が出る可能性があること。仮に他校への移動者が少なかった場合でも、特別教室棟1階に3部屋の多用途に使用できる教室を使用すれば、教室不足は生じない見込み

であることお答えしております。

また、市長とは、黒内小の課題について、常に情報共有を図っていること。

今年度の通学区域審議会では、適正な学校規模の基準のほか、適正化を検討すべき時期や考慮すべき要素、適正化策として考えられる手法、適正化を検討・実施・推進する体制について、12月末までに方針案を策定し、年明けの1月からパブリックコメントを行い、3月までには答申を頂く予定である旨をお答えしております。

次に、9番の椎名愛子議員です。椎名議員からは、不登校児童生徒に関する施策と校内フリースペース、それと「はばたき」の運用の3点について質問がございました。

初めに、不登校の施策につきましては、現状と主な要因をお伝えするとともに、フリースペースの配置や「はばたき」で支援を行っていること。

また、不登校児童生徒の悩みに寄り添い、それを解消するため、支援センターの相談員が電話や来所相談、家庭訪問相談等を行っていること。

さらには、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーを配置し、児童生徒や保護者に寄り添い、不登校の未然防止や早期発見、早期対応に努めている旨を回答しております。

次に、フリースペースにつきましては、設置の目的や利用状況、当支援員の配置の状況、さらには今後の展望についての質問があり、不登校で全く学校に通えなかった子がフリースペースに通えるようになったことなどの成果が徐々に見られること。今後はスクール・ソーシャル・ワーカーとの連携を深め、児童生徒への支援をさらに進めていきたい旨をお答えしております。

また、適応指導教室「はばたき」につきましては、現状と今後の運用について質問があり、在籍校との連携や「はばたき」を中核として、児童生徒の学びの場の確保に努めていきたいこと。

また、椎名議員から、適応指導教室という名称が適切ではないのではないかというような御質問があり、他市では「指導」を「支援」に変更して、不登校児童生徒や保護者の抵抗感を減らそうとしている自治体もあるそうです。

また、文科省の不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方からも、不登校児童生徒の自主性を尊重する傾向にあることから、今後、名称変更については検討していきたい旨を回答しております。

次に、渡辺秀一議員です。渡辺議員からは、黒内小の夏休みの児童クラブの受入れについて質疑があり、希望に応じた受入れができるよう必要な部屋数、支援員の確保に努めていること。

また、渡辺議員からは、公設が満員の場合、民設の児童クラブで受け入れられないかとの質問があり、基本的に民設は通年利用が優先で、夏休み限定の募集は行っていないこと。よって、公設で受け入れられるよう対応する旨をお答えしております。

最後の田中啓一議員となります。田中議員からは、部活動の地域移行における指導員の採用基準や活動実績、教員と指導員との指導方法の違いにより生徒は混乱するのではないかなどの質問があり、部活動ごとの運営協議会で、教員と外部指導員が指導方法等について意見交換したり、日頃からメールなどで情報をやり取りしているので、特に大きな混乱は起きていないこと。

ただし、生徒指導上の問題の対応については、外部指導員では限界があるため、学校側と連携を図りながら対処していきたい旨を回答しております。

最後に田中議員から、中学校進学推薦制度に関する選考基準について質問がございました。一芸にすぐれた子を何とか推薦してもらえないか。学校の推薦基準の見直しを図れないかとの質問が

	<p>ございました。</p> <p>基本的に高等学校の募集要項で示されている推薦基準に基づき、進路対策チームによる推薦会議で判断していること。中には「学校長が推薦する者」という基準もあり、他の生徒に疑念を抱かれないよう公平公正に選考していく必要がある旨を回答しております。</p> <p>以上が6月定例会議に上程しました議案の審議の結果と一般質問に対する回答となります。</p>
<p>椎名委員</p>	<p>一つは、予算の関係で、行政用語について、通次繰越しというのは、令和3年度も令和4年度も込みで工事やる場合に、その中で使うということか、また、繰越明許費との違いはどこにあるのか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>報告第4号は、継続費で予算を組んでいる事業ですので、必然的に当初組んでいる事業がそのまま、こういう形で報告がされるということなのですが、5番の繰越明許費というものに関しては、本来であれば年度内に支出まで終わらせるべき事業が、どうしても事情により終わらず、うえ払いが翌年度になってしまうといったものについては、この繰越明許費というような扱いになります。イレギュラーなものが、この下の部分に組み込まれるという形になります。</p>
<p>椎名委員</p>	<p>議員の皆様からの質問等で課題になっているのは、大きく分けて4点であると、読ませていただいた。</p> <p>一つは、黒内小学校の過大化に伴う適正配置。これは市民の皆様も非常に興味を持って見ていることだと思うので、本当に慎重にやるしかない。ただ、この適正規模、適正配置という文科省からの決まりが下りてきた背景というのは、小さい規模の学校の統廃合が狙いであって、決して18学級を超えるところが悪いというわけじゃない</p>

教育部長	<p>いというのが第1点であり、何とかして小さい学校を数少なく、各市町村の自治体の行政規模を適正化していこうという狙いで始まったことで、いいことのほうが、大きいところは多いと思っている。</p> <p>もう一つは、不登校問題。これは教育指導課のほうも手を入れていることであり、この絡みとあるのは、学校では精いっぱい頑張っているのだが、あと家庭教育の問題であると考えている。家庭教育講座の在り方というのは、それほど今まで大きく見ていかなかったけれども、これを何とか軌道に乗せないと、今の状況は打開できないだろうと。親は親として、学校に行かせるという方向性がなければ、どんどん増える一方なので、それと絡み合っているのが家庭教育講座と理解している。</p> <p>もう一つは、部活動の地域移行。これも関心事だと思う。もっと早く地域移行が行えればいいと思う。</p> <p>高校への推薦の課題については、各学校でしっかり基準持っていないと、子供たちも保護者も迷うので、早めにそれを公表して、この枠なら大丈夫であるとか、事前に判断ができるような方向で進めてもらえばいいと思う。</p> <p>確かに学校の規模に関しては、国のガイドラインは統廃合、小さい学校を何とかしようと思っ て、基準を出しているのが分かるのですがけれども、実際に守谷も新しい学校をつくっているというので、それぞれ昔からある学校とか、いろいろと大きさもまちまちなので、その学校のサイズに合った人数というのは、どうなのだとこのところ で見ていくしかないのかなと思っていますので、必ずしも大きいから駄目だとか、小さいから駄目だとは思っておりませんので、そこはそれぞれの学校の大きさに応じて、大体どれぐらいの人数が</p>
------	---

<p>教育長職務代理者</p>	<p>適切なのかというところで見たいと思っています。</p> <p>1点目は、補正予算関係で、中央図書館の改修工事が進むようになった。当初計画よりも増額して、より規模の大きな変更、改修工事になるということが教育委員会議でも報告をいただいて、大変結構なことだと思う。よりよい改修になるように、よろしくお願したい。</p> <p>それで市民から、多くの人から意見を頂くと思うが、先ほど、どなたかの議員さんがおっしゃった武雄市、スタバなんか一緒にしたところ。</p> <p>自分には行ってないが、かつて勤務していた教育委員会の仕事で、武雄市ができたばかりで、議員さんたちが視察に行ったりとかした時期があったが、個人的には、そうでもしないとスタバとかが来ない市ですから、地域ですから、守谷には必要がないなと私は思っている。</p> <p>多くの人が集まってくるというのは、図書館は本とか情報が集まってくるように内容で勝負すべきだと思うし、意見を頂けば、非常に熱心に図書館を利用している特定のグループの方とか、特定の個人の方の強い意見の影響を強く受けて、新しい改修がなされるのではなくて、一般の市民の方がどなたでも、子供から高齢者まで集まりやすい環境、それから本や資料や情報を求めて、集まってこられる居心地のいい場所というのをぜひ目指してほしいと思う。</p> <p>朝から行列ができて、駅から近い場所に前勤務したところあったもので、役所のやっぱり近くで。冬場になると、ホームレスの人たちが居心地のいいソファとかをざっと占拠して、一眠りする。冬の間寒いので、まちの中を歩き回っていて、図書館が開く時間になると、そこへ入ってきて暖を取るという、それをどうしたらいいかというのを検討した経験がある。</p>
-----------------	--

<p>椎名委員</p>	<p>だから、単純に集まりやすいとか、居心地がいいということと、図書館として集まりやすい、使いやすいというのは同じではないと思う。カフェがあるから集まってくるという問題ではないなと私は思う。いい改修になるように願っている。</p> <p>本来、不登校というのは、情緒学級で面倒見るものだった。情緒学級の入級の範囲は、不登校、自閉症、それから選択性緘黙と3項目があり、いつの間にか情緒学級のほうで各小中学校の不登校を面倒見なくなったというか、それどころじゃなくて、学習障害と、注意欠陥・多動性障害といういろいろな障害が入ってきて、本来、それは通級で10人ぐらい、たまにそこに来てということだったが、それを茨城県では、全国的にもそうだと思うが、不登校の子供が情緒学級にという認識は、校長でさえもなくなった。特に小さい子なんていうのは、情緒学級で面倒見るのが一番いいかなと、学校から離れないという考えがあるから、今の支援センターでは、1から4年生までの子供というのは、支援センターに来てしまうと、ずっと学校への復帰ができなくなるから、やめてほしいなと言ってある。</p> <p>その経緯というのは、保護者の皆様方たちは、1、2年生の子が家で、嫌だ、学校行かないと、どうしたってせめぎ合いがあるじゃないですか。それが何とももたないというか、長期戦で構えられないようなところがあるから、今の状態で増えてきている。県内も低学年の不登校は現在増えているようで、それをどう保護者に、支援という言葉を使って和らげりゃいいという問題ではない。</p> <p>今一番困っているのは、保護者への指導権が校長にないということである。校長は言われっ放しになってしまう。支援、支援でいいののかなというのが、つくづく感じる。</p> <p>その辺は、管理者は毅然としなくてはならない。</p>
-------------	--

<p>教育長職務代理者</p>	<p>親の言い分はあるにしても、この子をどうしていくかという視点に立って、長い目で見ていくしかないだろうというのが、思うところ。</p> <p>今、椎名委員さんが長い目でというお話をされましたけれども、私も大賛成だ。学校の低学年が学校を嫌がったりして、来たり来なかったり、休みがちだったりするのを一つ一つ、対応しても、難しいと思っている。</p> <p>私たち教育委員会が基本的に対処できるのは、義務教育の部分である。でも、もうちょっと先まで、中学校卒業した後、その後どうなったかというようなところまできちんと追跡して見てみると、小中学校の時代にきちんとケアされてきた子供たちは、そのまま大人になって、ひきこもりになったりなんかしないで、高等学校へ行った段階で、たとえ通信制だろうと何だろうと、きちんと卒業したり、大人のひきこもりとかならないで、社会で活躍できる人たちになっている事例がたくさんあると思う。</p> <p>今、まだ不登校が解消しないからとか、今、学校へ来ていないからということじゃなくて、目の前の子供たちをケアできる今の守谷の体制を一層充実させていくことというのが大事なかなというふうに思っていますし、たまには、たまにはという言い方はあれですけども、毎年じゃなくていいので、時には追跡調査、卒業した後どうなっているかの調査もしてみるとよいのかなというふうに思っている。</p>
<p>教育長職務代理者</p>	<p>次回定例会の日程 日時 令和6年7月25日（木曜日） 午後1時30分から 午後2時5分閉会を宣言</p>

会議録署名人

椎名 和良